

第 395 回集談会（ご案内）

1. 日時 2008 年 5 月 19 日（月）16:30～
2. 場所 402 講義室
3. 演者 臨床薬剤学教室 准教授中村 仁先生 内線(4410)
4. 座長 薬物治療学教室 講師平塚真弘先生内線(2212)
4. 演題 アリゾナ大学薬学部における Pharm. D 教育
5. 要旨

2006年4月より、臨床教育の充実を目的として薬学教育6年制が開始された。新カリキュラムでは、薬剤師が医療チームの一員としての役割を果たすための教育が求められている。すなわち、長期実務実習による実践トレーニングに加え、コミュニケーション教育や問題解決型教育を行うことで、薬剤師としての専門能力を臨床現場で発揮できる質の高い薬剤師を養成する必要がある。

日本での新薬学教育の参考となるのが米国の薬学教育である。米国では2年間のプレファーマシーの後、4年間の専門課程を薬学部で学び、6年間の過程を終えるとPharm. Dが与えられる。1年間の実務実習を含む4年間のPharm. Dプログラムでは、小グループ討論による問題解決型教育や実践的なコミュニケーション教育が導入されている。学生気質や文化の違いもあり、米国での教育手法をそのまま日本に持ち込むことが必ずしも効果的とは考えられないが、その内容は非常に参考になる。

今回の集談会では、演者が研修を行ったアリゾナ大学薬学部でのPharm. Dプログラムの概要並びに教育手法について報告する。